

練馬区子ども読書活動推進会議(第12期第四回)要録

日時：令和6年11月1日（金） 午後2時から4時まで

場所：光が丘図書館2階視聴覚室

●参加者

出席委員：林、木村、熊丸、工藤、遠藤、内田、降旗

欠席委員：相澤、坪倉、慶野、中村

事務局：小原光が丘図書館長、
押田子供事業統括係長、同係 和田、塚越、根本

その他：傍聴人1名

●議事等

1 開会

2 議題

- (1) 前回の会議の振り返りとその対応案について
- (2) 練馬区子ども読書活動推進計画（第五次）の検討状況について
- (3) 子どもの読書に関するアンケート結果について
- (4) その他

3 その他

4 閉会

【配付資料】

資料1 第三回推進会議における議論のまとめ

資料2 子ども読書活動推進計画（第五次）の基本的な考え方について

資料3 子どもの読書に関するアンケート結果【概要版】

資料4 子どもの読書に関するアンケート集計結果について

●会議要録

○事務局

資料の確認をお願いします。

(資料の確認)

○座長

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより、第12期 第四回練馬区子ども読書活動推進会議を開催いたします。

事務局から委員の変更および本日の出席者数、傍聴者数の報告をお願いいたします。

○事務局

本日の欠席委員は4名です。出席者は7名、傍聴者は1名となります。以上です。

○座長

それでは、次第に沿って議事を進めていきたいと思います。

2の議題1、前回の会議の振り返りとその対応案について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

○座長

ありがとうございました。みなさん、ご意見ありますでしょうか。

明後日11月3日に開催される予定のグループ学習室の周知は手広く行っているのでしょうか。どのようなかたちで中高生の皆さんに伝えているのでしょうか。

○事務局

今回は図書館内での周知のみとさせていただいています。青少年コーナーの勉強ができるスペースにポスターを貼ることで周知を行っています。

○副座長

読み聞かせボランティアのことですが、直接施設に赴いて「読み聞かせをしたいです」と言っていという認識でよろしいでしょうか。

○事務局

具体的な運用については今後の検討なので、まだ決定はしていませんが、今考えているのは、保育園で定期的におはなし会を開きたいけれどボランティアとつながりがなくて、とい

う方向けに、ボランティアを募集している保育園等の施設をホームページで掲載することを考えています。そこを見たボランティア活動団体が直接施設と相談をしていただくというのを考えています。

○委員

関連して、ボランティア団体とおっしゃいましたが、個人の読み手はどうすればよいですか。

○事務局

個人の方でも直接連絡を取っていただいて、施設との需要と供給がうまくかみ合えばぜひ活動していただければと考えております。

○座長

それでは議題を進めたいと思います。(2) 練馬区子ども読書活動推進計画（第五次）の検討状況について事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

○座長

ありがとうございました。意見や質問はありますでしょうか。

○副座長

パブリックコメントの募集はホームページで行うのでしょうか。

○事務局

区のホームページで行いますが、冊子にして各図書館で閲覧できる状態にする予定です。毎年いろいろな区の計画がありますが、冊子で置き意見はメール等でいただく予定です。

○副座長

各図書館のカウンターに置かれるということでしょうか。

○事務局

各図書館には閲覧できる状態で置くように伝えているので、図書館によっては地域資料コーナーに置いていたりカウンターでお申し付けのあったときにお出ししたり、対応は館によって異なります。回答は子供事業統括係あてになります。

○副座長

区報にはいつ出るのでしょうか。

○事務局

他の計画と同時期で、12月の区報に掲載されます。記事名としては「練馬区子ども読書活動推進計画（第五次）」となる予定です。

○座長

回答はメールというお話でしたが、例えば紙で持ってきて受付ポストに入れるなどの方法はないのでしょうか。

○事務局

確認をいたします。

※追記：持参または郵送、FAXでも光が丘図書館子供事業統括係にて受け付ける。

○委員

今回では難しいとは思いますが、今説明をしていただけてとても分かりやすく、説明をしていただくと一般の方はイメージをしやすいのかなと思います。例えばQRコードで計画は見られる状態にしつつ、今のように第四次から第五次への変更点だけを短い動画にして説明し、最後にコメントを送ることのできるフォーマットだと、動画の中で完結できればより分かりやすいかなということを感じました。新しい意見もいただけるのではないかと思います。

○座長

パワーポイントに音声を録音してそれを繋げた動画にもできるので、それで区民の皆さんがご覧になってそのままコメントを打ち込むという流れは、とてもスムーズに行きそうで、デジタル世代の若者にはいいかと思います。

○事務局

以前のパブリックコメントでは大人の意見しか聞かないのですが、今回から子どもの意見を聞くということで、子ども向けの簡略版、ダイジェスト版のようなものを作る予定です。学校のタブレットにも配信し、子どもたちの意見もいただけたらいいなと調整を行うところです。

○副座長

子どもたちにもというのは素晴らしいです。私は大人用も子ども用もいただいて見比べたいです。

○事務局

ホームページには大人用も子ども用も公開をいたします。ただし、子ども用はパワーポイント何枚かにまとめたもので、大人用と別に冊子を作るというわけではありません。

○副座長

子どもの意見聴取を積極的にという部分で、多様な子どもたちの読書機会の確保にもつながるところですが、何かしらの障害のあるお子さんの読書の実態や、図書館利用のニーズが、パブリックコメントだけでは十分に意見が集まらないのではと思います。ですが、「多様な子どもたち」というのは多様の中に障害というところがかかり入ってくるところだと思いますので、そこについても実態の調査ですとか、何か予定していることがあれば教えてください。

○事務局

今回実施した子どもの読書に関するアンケート自体は対象として、小学2年生、5年生、中学2年生、高校生ということなのですが、そのうちに特別支援学級等の子が含まれている可能性はあります。ただ、現状では個別に障害がある方向けに意見聴取を行うことができていないところです。なにかうまい方法があればご意見いただければと思います。

○副座長

学校でいうと支援学校、支援学級に限定してアンケートを取ることでそこにいる人だけの回答が返ってくるので弁別しやすいかと思います。ただ、知的な遅れはないけれど何かしらの障害がある方に対しては難しいかと思います。可能性としてあり得るのは、特別支援教室に対して行うというのは一つかと思います。ただ、匿名性があるものなので、親御さんからの了承を得てからでないといけないかと思います。あとは療育の施設や民間のデイ、児童発達支援施設、あとは私が勤務している子ども発達支援センターでも何かできないかなと、そういったところに協力を頼むと抽出がしやすいのではないかと思います。

○事務局

今回の第五次計画の策定にあたって、いろいろな背景のある方に意見をうかがって反映させるというのが、もしかすると間に合わないかもしれません。第五次計画で子どもの意見聴取や、多様な子どもの読書機会の確保というところに力を入れていきますので、その中の取組みとして、そういった施設や学級に意見聴取を行っていくというのは検討しなければならぬと感じました。

○座長

それでは、議題を進めます。

(3) 子どもの読書に関するアンケート結果について
事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

○座長

ありがとうございました。ご意見はございますでしょうか。

○委員

③の本が嫌いな理由が文字を読むのが苦手というところですが、理想の話をしてしまうのですが、来年から電子図書館サービスが開始するということで、読みたくても読めなかった人たちが読めるようになっていいなと思うのですが、これはオーディオブックというのに入っているのでしょうか。いずれオーディオブックが入っていくと、高齢者の方も耳からだとても読みやすいということで需要があるかと思い、あるといいなという理想です。

また、⑥中高生の図書館での会話許容派が7割ということなのですが、小学2年生の子が図書館では静かにするべきだという意見が多く、これはおそらく学校で「図書館では静かにしなさい」という指導がされるから、このアンケートを書いてくださいと頼まれたときに、素直な小さな子どもたちは「この結果がチェックされるのではないか」というような、図書館では静かにしなさいと言われているからそう書かなきゃだめだなという心理が働きそうな気がして、これは自由に書いていいんだよと言っている学校もあるかもしれませんが、なんとなくそのような心理が反映しているのではないかなと思います。

⑦漫画、小説、趣味の本の電子書籍のランキングについてですが、この趣味というのがどのような本を指しているのか関心があります。趣味というのは具体的にはどういう本がほしいですかというのを深堀りして聞いてみるとまた需要が発掘されるのではないかと思います。

○事務局

まず、オーディオブックについてですが、1月の電子図書館サービス開始に伴って取り扱いを行っていきます。ただ現状としては、システムを構築する業者がサービスの提供しているコンテンツという形で、図書館の者が選書して提供するというものではありません。一括でサービスとして提供されているものをご利用いただく形になるので、はたして児童書関係がどれぐらい充実しているかというのはまだわからない状況です。

会話について、学校では静かにしなくてはいけないと教育の中での心理が働いているのではないかと、そういうところを解消していくためにも図書館で会話できるような機会が定期的にあると、お子さんたちも理解が変わっていくのではないかなと思うので、取組みを進めていきたいと考えています。

趣味の本は確かに深堀りしていきたい内容であると思います。アンケートを作成した側と

して想定していたのが、部活動やスポーツ関係などを考えておりました。ただお子さんが具体的にどのようなものを考えていたかというのは、今後の機会に伺おうと考えております。

○副座長

②本が好きになった理由の中に、家に本があったからと言っている子どもたちが多い一方で、③で家族も本を読まないから本が嫌いという意見があり、これらは関連する内容だなと思いました。やはり最初に家の中に本があって、お父さんお母さんが読んでいるのを見聞きしている子たちは本が当たり前になっていくだろうけれど、家族も本を読まないから家には本がないのかもしれないですが、やはり本嫌い、本は無駄だと思われていたら残念だなあと感じます。家族が図書館の読み聞かせなどに連れていくおうちの子どもたちは自然に読書をする方向に向くだろうなと思いました。

○事務局

ご意見ありがとうございます。家庭で読書が普段から自然に行われている状況が、お子さんの読書への関心にも結びついているというところで、今回の新しい計画では家読（うちどく）の推進というのを取り上げていきたいと考えています。同じ本を家族で読んで意見を共有していくという取組みになります。それに伴って家読ノートなどの配布もしたいと考えています。一冊の本が媒介となって家族のコミュニケーションのきっかけとなるとよりよいのではと考えています。

○座長

図書館の取組みは、図書館に来る人はますます恩恵を受けられるという形にどうしてもなってしまいますが、なんとか地域を挙げた底上げのための工夫をされるとよろしいかと思えます。

○委員

本に触れる機会が多いことが、本を好きになるきっかけになるのかなと思います。どこの小学校もそうなのかわかりませんが、小学校の夏休みの宿題で読書感想文があるのですが、「本を何冊読みましょう」という宿題も以前まではあったのがなくなってしまい、読書の宿題が全くなくなってしまいました。私の娘の通っている学校に関しては、前年度末に副校長先生から、読書率が下がってしまっただうしたらよいかとサークルにご相談をいただきました。先生方もどういった取組みをしようかと苦慮されており、先生方の企画を行っている最中ようです。個人的なことですが、読書率が下がったということですが、前は朝読書もあったのですが、それがなくなってしまい朝読書復活を提案したいという思いがあります。夏休みの宿題のことも、以前は5冊読みましょうなど、目標の冊数があったのですがそれもなく、朝読書もなく、学校もそこから変えていかなければならないのかなと思います。

○座長

なかなか冊数という目標にしてしまうと、冊数だけクリアしてしまえばいいやという考えで、簡単な本や絵本で読んだというお子さんも出てきそうなところですので、この中から何冊、というようなリストアップしたものとよいかと思います。必読図書はまだありますか。

○副座長

課題図書はまだあります。ただ、以前のように課題図書を夏休みの宿題の中に組み込むという姿勢は薄くなっていると思います。図書館開放をやっていると、以前は夏休みの前くらいに課題図書を選びにお母さんが来てたくさん持っていくというのがありましたが、最近はそのような熱心な方はあまりお見受けしなくなったように思います。

○委員

図書館管理員さんが週2で来ていただいているので、管理員さんのおすすめの本などをリストで作っていただけると、夏休み前に配っていただけるといいのかなと思います。

○副座長

図書館管理員さんが学校に入っていると思うのですが、「よんでみようこんなほん」をどういう風に作っているかご存じの方が結構いらっしゃり、楽しみに待ってますというお声があります。

課題図書の話ですが、ずいぶん前に課題図書の感想文を書かせて取りまとめる機関に学校が送り優秀な作品は金賞や銀賞をいただくというのがありました。ここ十数年は感想文を集めるとかそういう指導をしていい作品、いい文章は送って評価していただくというような手間のかかることをしていないと思います。たしかに子どもたちにとってもハードルは高いし、親御さんも手を貸したりすると思うのですが、今はどのような状況なのでしょう。

○委員

読書感想文についてですが、以前は小学校も中学校も夏休みの宿題に読書感想文がありました。そして作文のような宿題は読書感想文だけでした。現在、中学校はいろいろなところから作文コンクールへの応募依頼が非常に多く、それをすべて受けると、子ども目線で見ると夏休み中に十個程度の作文を書くことになります。ただ、その中でもどうしてもこれは外せないというものもあるため、それらと読書感想文をやるとすると、だいたい三個の作文を書くことになります。子どもの負担を考え、読書感想文が残っている学校もあるし、それ以外の課題になっているところもあるのではないかと思います。

夏休みの宿題についてですが、夏休みの宿題を出さないようにしようという学校は増えてきていると思います。理由の一つが、子どもが学校に足が向かなくなることが多い時期が夏休み明けであることです。宿題が終わらなかったからという理由が結構あるということ

す。そのため夏休みの宿題を一切出さないようにしようという学校も出てきているというのも事実です。ただ私が今までいたところでは過度に宿題を出すのは控えようとはいっても、例えば学習習慣をつけるというのもありますし、夏休みだからこそできること、それこそ日頃は落ち着いて本を読むことはできないけれど夏休みだからこそゆっくり読むことができる、そういう子たちは積極的に本を読みましようというということで、先ほどの課題図書ではないですけど、学校図書館でおすすめ本の紹介コーナーで紹介したり、以前いた学校ではおすすめ本を管理員にだけお任せするのではなく、全先生方のおすすめする本を紹介したりしました。

また、私の関わっていた学年では必ず朝学習か朝読書をやっていました。朝学習をやっていることが多かったのですが、だいたい年に2回は朝読書をやろうというふうにしていました。今も朝学習をやっている学校、学年もありますし、朝読書をやっている学校、学年もありますので、学校の先生方によっても違いがありますが、本を読むことが完全に追いやられているわけではなく、ただ、やりたいと思ってもなかなかできない、いい取組み、面白い取組みはないかなと模索している学校は結構多いのではないかと思います。

少しでも子どもたちに本を読んでもらおうというところから、朝読書を行うことはありますが、感想文としてしまうとハードルがすごく高いので、自分が読んだ本の中でこの一言がすごくよかったという心に残った一言をお互いに紹介しあうという取組みをやったことがあります。子どもたちの反応は良かったです。教員も「この本のこの言葉が心に残りました」と紹介すると、へーとか、食いついてくれる子も多かったです。

学校現場としては時間の確保が大きな課題ではあるのですが、決して読書を置き去りにしているわけではないです。ただ、どの学校も同じようにというのは難しいところがあります。

○座長

最近の新聞報道などで教員の不足について大きくクローズアップされていますので、もしかすると教員の加重労働の問題で、朝早くから活動ができなくなったり、そういった変化もあるのかもしれませんが。カリキュラムが変わって、純粹に朝にそのような時間が取れなくなって、内容でカバーしなければならないことが増えたり、そういったことが影響をうけているのかもしれませんが。

ご家庭の環境が違うのと同じように、たまたま通った学校、たまたま出会った先生で経験の格差が広がってしまうのも、均すとはいかないまでも、どのお子さんにも機会の提供をするためにはどうしたらよいのか、引き続き、地域の課題となります。

○委員

昨年度の小学校の状況なのですが、夏休みは本を何冊読んだかというのと、ページ数を何ページ読んだかという宿題がありました。子どもは分厚い本を読んでいたのでも、冊数だけで評価されるとほかの子に負けたような気になると言っていて、分厚い本を読んでいる子

はページ数も見られるから納得だと言っていました。読書感想文の宿題は六年間なかったです。朝読書もなかったです。校長先生次第なのかと思ったりもしますが、学校ごとで全然違うというのはとても残念で、たまたま行った学校で読書活動が盛んであれば好きになるきっかけになるでしょうが、差があるのは困るなと感じました。

大学で教えている中で、朝読書の話をしてくれる学生さんが多く、朝読書のモットーが「みんなでやる、毎日やる、好きな本でよい、ただ読むだけ」というもので、感想文や評価を求めないというのが自由に読めるというのが嬉しかったという話でした。その時にほっと一休みできたという生の声もありました。今のぎゅうぎゅうのやることがたくさんあって評価の社会の中で、朝読書の時間が読書のみならず一息つける時間にもなっているという視点もいれてもらえるといいなと思います。先ほどの「心に残った一言」は気分的にも楽になるかもと思います。読書感想文の講座を実施したほうがいいのではないのでしょうか。

○委員

読書感想文シートというものがあって、それを宿題でやって書き上げは学校でやるというものでした。

指導方法の課題分析というのを学校のホームページで見て、その中に小学六年生で原稿用紙の使い方が身についていない児童が多いとあり、作文をしないから原稿用紙の書き方がわからないのかなと思いました。

○委員

うちは読書感想文の講座がないので、朝日新聞の疋田義明さんが動画で教えてくれる講座が無料であったので、四つの構成で書きやすい方法を教えてもらいました。そういった教えてもらえる環境、探せば行きつくのですがなかなか行きつかない人が多いと思うので、学校にやってもらえればなと思います。

小六の担任が素晴らしくて、漢字作文というのがあって、六年生の新出の漢字を使って自由に作文をするという取組みを行っていました。例えば「推」という字を習ったら、「私は推量して…」とか自分でその漢字を使って作文をする、自動的に原稿用紙の書き方も学べました。それがとても役に立ったと本人も言っていましたので、そういうやり方はどんどん広まればいいなと思います。新出漢字 15 文字くらいを使って原稿用紙 1 枚くらいを自由に書きます。自然に漢字を調べたりするので楽しんで学べたようです。

○座長

読書は文を書くことと結びついていますので、読書プラスアルファの取組みと図書館を結びつけるのもいいかもしれません。みんなで本を読むだけでなく、ちょっとひとことでもいいから何か書いてみよう、みたいなアクティビティもありえるかもしれません。

○事務局

読書感想文の書き方を学ぶ機会がなかなかないというところで、一部の図書館ではありますが、夏休みの期間に読書感想文の書き方の講座を開催している館もございます。また、多くの館で、読書感想文に適した図書の展示も行っております。そういったものもご利用いただいて学んでいただければと思います。

○委員

原稿用紙の使い方や子どもたちがもう少し原稿用紙に触れる機会が増やせないかというところですが、私が実際に使っていていいなと思ったのが「作文ノート」です。簡単に言うと、ノートの見開きが原稿用紙に近い構成になっているものです。例えば行事が終わってその感想を書くのに都度原稿用紙を配って書いていると、子どもたちのなかでそれらが積み重なっていかない、でもノート形式ですと、年間一冊だとすると、子ども自身が自分を振り返ることもできますし、結果的にも見た目が原稿用紙なので何回も原稿用紙の書き方指導ができるので、そういった形で少しずつ定着していきます。半面、書くということに特性もありますが課題のある子もいて、書けないけれども打つ（タイピングする）ことならできる子もいます。その子たちのことも救ってあげたいです。作文ノートを必ず全員にやらせましょとなるとその子たちの負担が大きくなってしまふかなと思います。読書感想文であればその子がどういう風に感じているのかタブレットで打つことができますが、そういった点に課題が残ると思います。ただ、いろいろな学校でいろいろな工夫をしていると思いますので、そのあたり学校のことであれば、担任の先生や学年主任の先生に話をしてみるのもいいのかなと思います。

○座長

アメリカで子育てをしていたときのことを思い出しましたが、夏休みは学年の境目で構造的に夏休みの宿題はないので、チェーン店的な大きな本屋さんが夏休み中に子どもに本を読ませるために本屋さんがコミュニティボランティアのようなかたちで表のような紙を配って、そこに子どもたちが読んだ本のタイトルと一言感想を書き、それを全部埋めると候補の本の中から無料で本をもらえるというご褒美システムがありました。物で釣るのがいいとは個人的には決まっていとは思っていないのですが、子どもはそういうハンコであったりシールであったり小さいご褒美システムが好きだったりするのかなと思いました。

アンケートの結果に関して、改めて何か感想やご意見ありますでしょうか。

○委員

あなたは読みたい本があるときどうしていますかという質問で、二番目に多いのが買ってもら、自分で買うというのが印象深いです。図書館では副本と言って何冊か購入しているのですが、それでも人気の本は二年待ちとか、何百人も予約が入ってしまうことがあるので、どうしても買ってしまうのかなと思います。

学校さんとの話し合いで聞いたのが、コロナ禍で多少予算があるので本に回したという話

でしたが、子どもたちのほうで買ってしまうということもあって学校図書館も公共図書館も最近貸し出し冊数が減っているのかなと思っています。

○座長

オンラインで気軽に買うことができるからでしょうか。
自由記述の抜粋も読みごたえのある集計結果となっています。

○副座長

10 ページのその他の自由記述について、小学校2年生のヨギボーとはなんでしょうか。

○他の委員より

クッションのことではないでしょうか。

○副座長

行きたいと思う図書館が、クッションに寝転がれる図書館という理想なのですね。

○事務局

理想の図書館を聞く質問で、ヨギボーや寝転がれる図書館という回答は10件以上見られました。

○委員

ハンモックに横になりながら本を読めたらいいですね。

○副座長

図書館が家から近いといいなと思っている子どもたちが多いのは納得できます。やはり図書館が遠いに行くまでが大変で足が遠くなってしまうと思います。

○座長

小学校2年生の子が「カフェがあるといい」と言っていて、2年生からお茶を飲みながら本を読みたいと言っていてかわいらしいですね。

○委員

13 ページの図書館の仕事でやってみたいことで、中学2年生で「ブログ」という自由記述がありますが、こういうのを図書館でやってみてもいいのではないかなと思います。

○座長

図書館を利用したときに、利用している中学生にブログを書いてもらうということでしょう。

うか。

○委員

図書館から発信する「図書館ブログ」を中学生に書いてもらおうといいのかなと思います。

○座長

「お泊りするぬいぐるみのお世話」これはかわいらしいですね。

○副座長

この子はぬいぐるみのお泊り会でいい思い出のある子なのだろうと思います。だから、今度は小さな子のぬいぐるみのお世話をしあげたいと思ったんだろうと想像します。

○委員

こどもと本のひろばでも以前はぬいぐるみお泊り会をかなりやっていました。結構大変なので、今はやっていないのですが、本当に喜んでいただけます。この意見はお子さんが自分がやりたいということですよね。これは面白いですね。

○副座長

今度は自分がやりたいと思ったんでしょうね。こういうつながりが、図書館という文化施設の中で続いていくというのはいいことだと思います。

13 ページに本の修理というのがありますが、先日大人向けの本の修理講座がありました。ああいった企画を子ども向けに、中学生くらいの子なら喜ぶ子もいるんじゃないかと思っています。

○事務局

今週、「本の修理ワークショップ」を実施しました。そこではご自宅から修理したい本を持ってきてもらい、破れた本の直し方などの講座を行いました。「よんでみようこんなほん」にも本の修理をテーマにしたものが掲載されていますので、図書委員の子なども読んでみたら楽しいだろうと思います。今回好評だったのと、若い子や手先の器用な子はやってみたいという子はいるかもしれませんので、今後検討していきます。ご意見ありがとうございます。

○委員

今の流れで、このアンケートをもし今後とるのであれば、本の修理・整理にたくさんの票が入っているので、アンケートの後に本の修理・整理体験会のリンクを貼れば、もしかしたら集まるのではないのでしょうか。アンケートと講座を連携させたらいいかなと思います。

○事務局

今回の子どもの読書に関するアンケート自体は第五次計画の策定に向けたアンケートということですので、毎年というのは想定していませんでした。計画の中で子どもの意見の聴取を進めていくというのがありますので、その取組みの中でなんらかの方法で意見聴取ができたかと考えています。それに重ねて図書館でやっている事業のPRなども連携してできたらよりよいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

○委員

アンケートに関してですが、個人的には経年変化をみていくというのがあるかと思います。学校現場の立場で発言させていただくと、例えば必ずこの時期にこういうアンケートがあるということが定例化するのであれば、もしかしたら回答率を上げることもできるかと思います。

アンケートにリンクして事業を紹介するという話では、中学校では職場体験が復活しまして、可能であれば図書館で職場体験をする生徒に修理などを教えていただけると経験になると思いますし、その後に体験会などがあって参加すればその子の経験値になるのではと思いました。

13 ページのアンケートの小学5年生の自由記述に関して、「図書館で悩みを聞く」というのが結びつかなかったのですが、こう答えた子は悩みを聞いてもらった経験があるのかなと想像します。ちょっとした悩みを図書館でも聞いてもらえるんだよというのを子どもたちが知れば、目的があって図書館に行くという子を増やすことができる、という意味ではいいのではと感じました。

○座長

本のアドバイスのついでにちょっとした悩み相談を、家族でも学校の先生でもないからこそ話したいことが子どもたちにもあるかもしれません。

○事務局

職場体験の際には、一通りのカウンター業務の他に、本のポップづくりやちょっとした本の修理や新刊として本を出すときの流れなどの説明をしています。それは短い時間ですので、青少年向けの本の修理の講座を検討したいと思います。

悩みを聞く仕事をしたいという回答について、本についての相談（レファレンス）だけでなく、不登校児の居場所としての図書館の役割があると思っています。その人たちが来てどんな本を探しているのか、その時には「今日は寒かったね」から入り、いろいろな会話をしながら「こんな本が入ったけどどう？」と会話し、それが悩みを話すきっかけになることもあります。

○座長

ちょっと話をする相手という意味ですと、小学生には中学生がつくとか、中学生には高校生がつくとか、割と年齢近めのちょっと先輩だけど部活の先輩ほど厳しい関係ではないような、最近のお子さんは子どもの数も少なくてご兄弟もいらっしゃらなかったりするので、ちょっとだけ上のボランティアの子と自由に交流するですとか、そういう機会の器として機能するというのも面白そうだと思います。

○副座長

⑧の練馬区立図書館でやってほしいことで、上位2位がボードゲーム、科学教室、工作会で直接的に読書とあまり関係のないものというのが面白いと思いました。考えてみれば、読みたい本があるから図書館に行くという一般的なルートがあると思うのですが、逆に興味がある催しがあって、そこに来たことによってそれに絡めた体験に絡めた読書体験を提供する機会があると、イベントっていうのは確かにいいよなと思いました。例えば、図書館聖地化プロジェクトなんていう、小竹図書館は芸大が近いこともあるのでアート系の催し、稲荷山図書館ですと昆虫、大泉図書館でしたら東映撮影所があるのでアニメとか特撮とか、カルチャーのほうから入って行って読書に親しむみたいな経験を小さいうちからやっていくと、読書体験としては面白いのではと思います。

プラスでコミュニティにもなるのではと思います。専門っぽい話になりますと、発達のあるお子さん、特に自閉スペクトラム症、対人関係に困難さがある方たちはどうしても一般的な友達付き合いが対等にできにくくなってしまうのですが、趣味の合う仲間とだと繋がれるということがあります。そういう人たちのコミュニティとして、同じ興味の仲間が集まる図書館というのが機能するとより充実するかと思います。

○委員

14 ページの⑧練馬区立図書館でやってほしいことの中の、朗読イベントですが、今声優さんが人気で、声優さんと呼ぶのは大変かもしれないのですが、声優の卵みたいな方はたくさんいると思うので、そういう方呼んで朗読してもらうのはいかがでしょうか。声優の勉強をしているだけあって、声もいいですしご本人も勉強になるのかなと思います。

○副座長

貫井図書館が声優の銀河万丈さんと呼んでいました。

○座長

他にはございますか。

○委員

職場体験で何か体験をしてもらいたいというお話が委員からあったのですが、実際に南大泉図書館で職場体験に入ってもらった生徒さんには、ポップづくりですとか、おすすめの本

を選んでもらって、その本を置く場所をデザインしてもらって展示したりしています。また、ブッカーをかける体験ですとか、いろいろやっています。

○委員

アンケートを取る前に、結果をフィードバックをしてあげてほしいという話をした記憶があります。この結果を、さきほど動画を作ってはという話もあったのですが、学校のほうにはどのようにフィードバックをされるのでしょうか。

○事務局

フィードバックをする点については事務局も準備しております。やり方についてはまだ公表はしていないところなのですが、第五次計画のここに活かしましたということも含めてみせられるといいなと思っております。検討させていただきます。

○座長

集計結果だけでもそれぞれの学校に1部ずつあってもよいかもしれません。

○副座長

職場体験に関連して、布の絵本の話をしていただきたいと思います。布の絵本製作の後継者がいないという話があり、ぜひ中学生、これから大人になっていく子たちなので布の絵本、またその背景、なぜ布の絵本ができたのかなどの話を伝えてほしいと思います。

アンケートの16ページなのですが、学校図書館のところ、なぜ図書室を利用しないのですかというところですが、「図書室が開いていないから」というのがわずかな数字かとは思いますがやはり「開いてるといいな」と思う子がいるのだと思います。図書館開放があるとかないとか学校によって違うのだと思いますが、入りたいときに開いてなかったんだろなと思います。また、「読みたい本が図書室にないから」というのが、この項目は重要で、どんな本なら読みたいと思ってくれるんだろう、どんな本を揃えてあげればいいのかと思いました。公共図書館ほど学校図書館は大きくないので、小学校なら小学生向けの本だけだし中学校ならその3年間だけの限定があるとは思いますが、いずれにしても「自分が読みたい本がないからもういいや」となってしまうのが読み取れるので、公共図書館の課題もそうだと思うのですが、学校図書館の一つの課題として考えていきたいし、専門職の方々にも考えていただきたいと思いました。

○委員

今のお話で、せつかく17ページで「あなたの好きな本のタイトルを教えてください」というランキングがあるので、フィードバックの時にこのタイトルをお伝えするだけでも「同世代の子がこれに興味があるんだ、じゃあ自分も読んでみようかな」という子がいるのかもかもしれないと思いました。

読みたい本がないという回答ですが、15位以下もまだ続くんですよ。ここに載っている本が図書館に全部あるのかというのが気になりました。理想はやはりアンケートを定期的にとって子どもたちがどういう本を読みたいのか、具体的なタイトルが出るのであれば、図書館にあるのか確認をするというのが必要だと思いました。

○副座長

このアンケート結果は学校に入っている管理員の方には送られるのでしょうか。

○事務局

管理員に宛ててというよりは、協力していただいた学校にはアンケート結果としてお送りしますので、学校図書館でも把握できるようにしていただきたいと考えています。

好きな本のタイトルのところで、電子書籍について取り扱いがあるかというのも確認したところ、結構なタイトルが電子書籍では取り扱いがありませんでした。ですが、一部のものについては、取り扱いがありますので、こうした意見を参考に、電子書籍も充実させていきたいと考えております。実際にランキングされているものを取り扱いはしていきたいと考えております。

○副座長

ランキングを見ると結構漫画が入っていますね。学校にはちょっと置ききれないと思いました。

○座長

小2の「はたらく細胞」なんていう学習漫画風のものもありますね。高校生は回答者数のわりに挙げてくれたタイトルの票数にバラつきがあるように思います。好きな本で挙げる本もまとまらないくらい好みが分かれているんだろうなと思います。

○委員

やはり映像化されたものが強いですね。どちらが先なのかわかりませんが、ほとんど映像化されていますね。

○座長

大学1年生に書いてもらったもので全く同じことを感じました。「この本知らない」と思って調べると、映画、漫画、アニメ、または全種類あるみたいな作品がすごくありました。

では、本日の議題は以上になります。

もし、委員の皆様で補足したいことがございましたら、事務局へご連絡いただければと思います。

では、最後に事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局

第五回の会議については、令和7年3月ごろを予定しております。

○座長

それでは、以上で第12期第四回練馬区子ども読書活動推進会議を終了いたします。ありがとうございました。